

～住み慣れた地域で自分らしい暮らしができるまち～

はやしま 認知症 サポートブック



早島町

はじめに

早島町は、人口が約12,500人のうち、65歳以上の人約3,400人、高齢化率^(※1)は27%を超え、超高齢社会^(※2)を迎えています。(平成31年2月現在) その中でも認知症またはその予備軍の人がおよそ2割おられ、支援・介護が必要になった原因としても認知症の割合は少なくありません。

認知症は高齢になるほど発症する可能性が高まる病気であることから、今後もその増加傾向は続くと思われます。誰もが認知症になる可能性があり、関わることになるかもしれない身近な病気です。そのため町では、地域住民の認知症の理解を深め、認知症の人とその家族が安心して暮らせる体制づくりを進めています。

「はやしま認知症サポートブック」は、認知症の症状に応じて、いつ、どこで、どのような医療や介護サービスなどを受ければよいかを示したものです。なお、認知症の症状は個人により異なりますので必ず同じ経過をたどるわけではありませんが、今後、予想される症状や状態の変化の目安として参考にしてください。

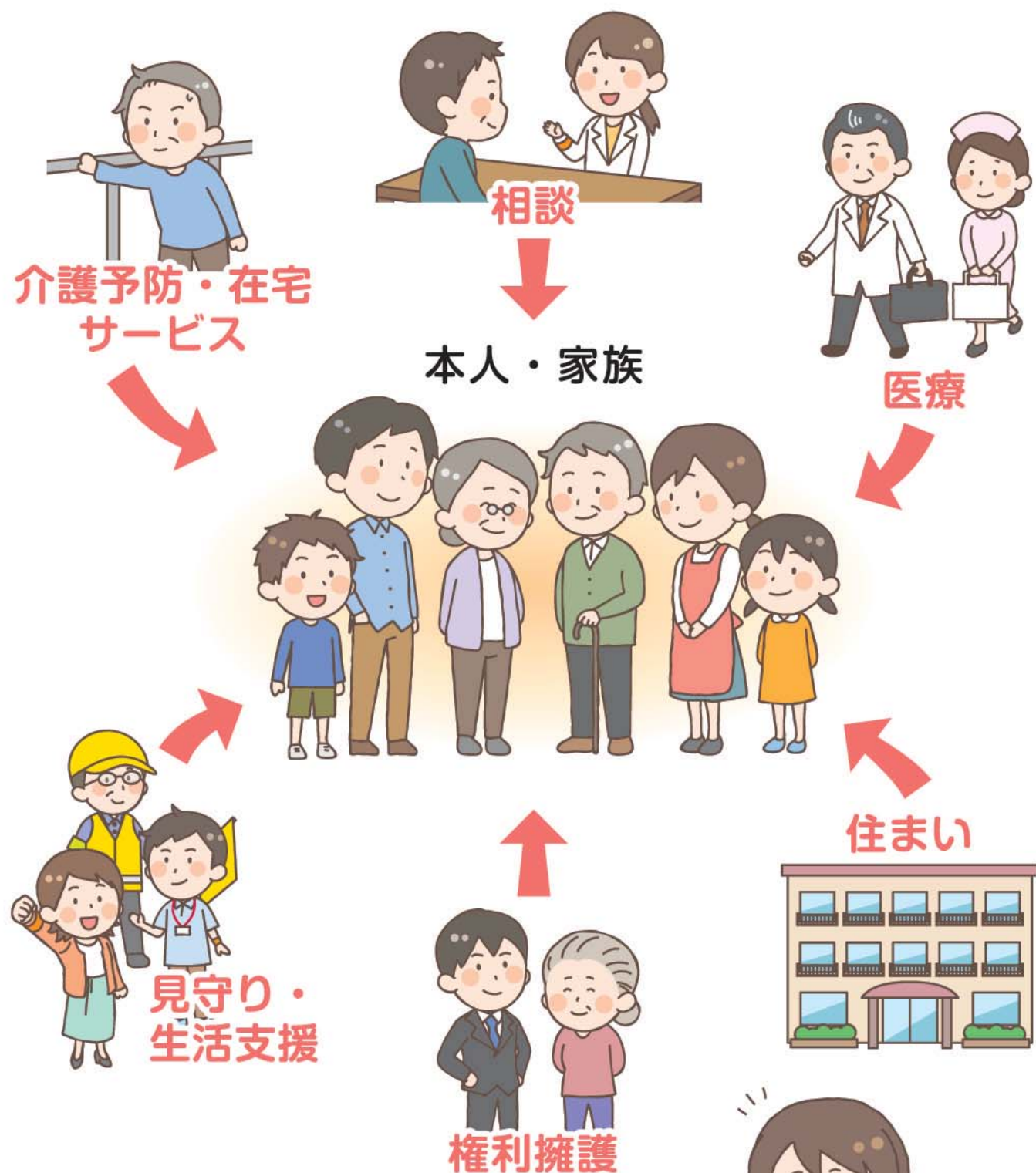
早島町で一人でも多くの認知症の人やその家族が少しでも不安を軽減でき、いつまでも住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるように認知症サポートブックをご活用ください。

※1高齢化率：65歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合 ※2超高齢社会：高齢化率が21%を超えた社会

もくじ

- 1. 認知症をもっと知ろう 4ページ
- 2. 認知症の受診と治療・ケア 10ページ
- 3. 認知症の人と家族を支える 12ページ
- 4. 認知症の進行に合わせて利用できるサービス ... 18ページ
- 認知症の気付きチェック 裏表紙

認知症になっても 住み慣れた地域で暮らせるように



その人らしい生活を長く続けるために、
さまざまな支援を活用していきましょう。



1

認知症をもっと知ろう

認知症は誰にでも起こりうる症状で、85歳以上になると4人のうち1人に認知症の症状があるといわれています。



「認知症」とは、何らかの原因で脳の働きが低下したり、脳の細胞が死んだりすることによって、脳の認知機能やさまざまな状況に対する判断に不具合が生じ、生活する上で日常生活に様々な支障が出てくる状態(およそ6カ月以上継続)をいいます。年をとるにつれ昔のことは思い出せるのに、最近のことは思い出せなかったり新しいことを覚えるのが苦手になったりしますが、これは「加齢によるもの忘れ」で「認知症」とは違います。もの忘れの自覚がなく、体験自体を忘れてしまうという症状がよく見られるようになると認知症の可能性があります。

「加齢によるもの忘れ」と「認知症によるもの忘れ」の違い(例)

加齢によるもの忘れ

体験の「**一部**」を忘れる

「何を食べたか」思い出せない

目の前の「**人の名前**」が思い出せない

「**ヒントがある**」と思い出せる

認知症によるもの忘れ

体験の「**全部**」を忘れる

「**食べたこと自体**」を忘れる

目の前の人「**誰なのか**」分からない

「**ヒントがあっても**」思い出せない

※これらはあくまでも目安です。

認知症の始まりは家族や周囲の気付きが大切！！

認知症の始まりは、本人よりも家族や周囲の気付きが少なくありません。ポイントは下記の症状が以前に比べて頻度が高まっているか、程度が重くなっているかなどの変化です。もしかして認知症のはじまり？と思ったらかかりつけ医や地域包括支援センターに相談してみましよう。



電話を切ったばかりなのに相手や内容を忘れる



テレビのリモコン等簡単な操作に戸惑う



慣れた道で迷う



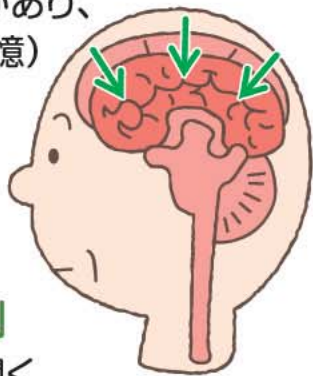
身だしなみを構わなくなった

認知症の主な種類と特徴

認知症の原因となる病気にはさまざまなものがあり、原因により症状のあらわれ方に特徴があります。ここでは認知症の代表例を示しています。

アルツハイマー型認知症

脳内に異常なたんぱく質がたまり、神経細胞が破壊され、脳に萎縮が起こります。記憶障害があり、最近の記憶（短期記憶）が難しくなります。

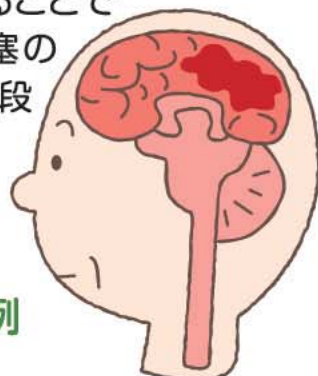


特徴的な症状の例

- ・同じ質問を何度も聞く
- ・日にちが分からなくなる
- ・重度になるまで運動機能は保たれる など

脳血管性認知症

脳梗塞や脳出血などの病気で脳細胞の働きが失われることで発症します。脳梗塞の再発などで症状が段階的に進みます。



特徴的な症状の例

- ・意欲が低下する
- ・もの忘れがあるがしっかりしている（まだら認知症）
- ・手足の麻痺がある など

レビー小体型認知症

脳内にレビー小体という異常なたんぱく質がたまり、神経細胞が破壊されます。うつ状態、震え等の症状や幻視（目の前にないはずの見える）が現れます。



特徴的な症状の例

- ・子どもや虫が見えると言う
- ・夢を見て反応し大声を出す
- ・初期のもの忘れは目立たない
- ・手足のふるえ など

前頭側頭型認知症（ピック病）

もの忘れの症状は軽く、意欲や理性、感情をコントロールすることが難しくなります。



特徴的な症状の例

- ・同じ時間に同じ行動をとる
- ・こだわりが強い
- ・周囲を困惑させ、自己本位な行動が目立つ など

65歳未満で発症する

若年性認知症

まだ若いということで、診断までに時間がかかり、うつ病などの精神疾患と診断されることも少なくありません。

こんな症状に注意しましょう!!

- ・書類の整理が難しくなった
- ・家事に時間がかかるようになった
- ・乗っている車に傷が増えた など

認知症の症状

認知症の症状はさまざまですが、「中核症状」と「周辺症状」の2種類に大きく分けられます。「中核症状」は記憶や判断力、時間や場所の認識などの認知機能が損なわれる認知症の症状です。「周辺症状」は中核症状をもとに本人の性格や周囲との関わり方、環境などが関係して引き起こされる症状です。

周辺症状

▶ 改善することができる

妄想・幻覚・暴力行為・せん妄・不潔行為・徘徊・過食など食行動の混乱 など

中核症状

▶ 治すことが難しい

■ 記憶障害

物事をおぼえられなくなったり、覚えていたことを思い出せなくなる。



■ 実行機能障害

料理や旅行など手順や計画を考え、それにそって実行することが難しくなる。



■ 見当識障害

時間、日付、季節、場所、人間関係などが分からなくなる。



■ 理解・判断力障害

2つ以上のことを同時処理や、いつもと違う些細な変化への対応が難しくなる。

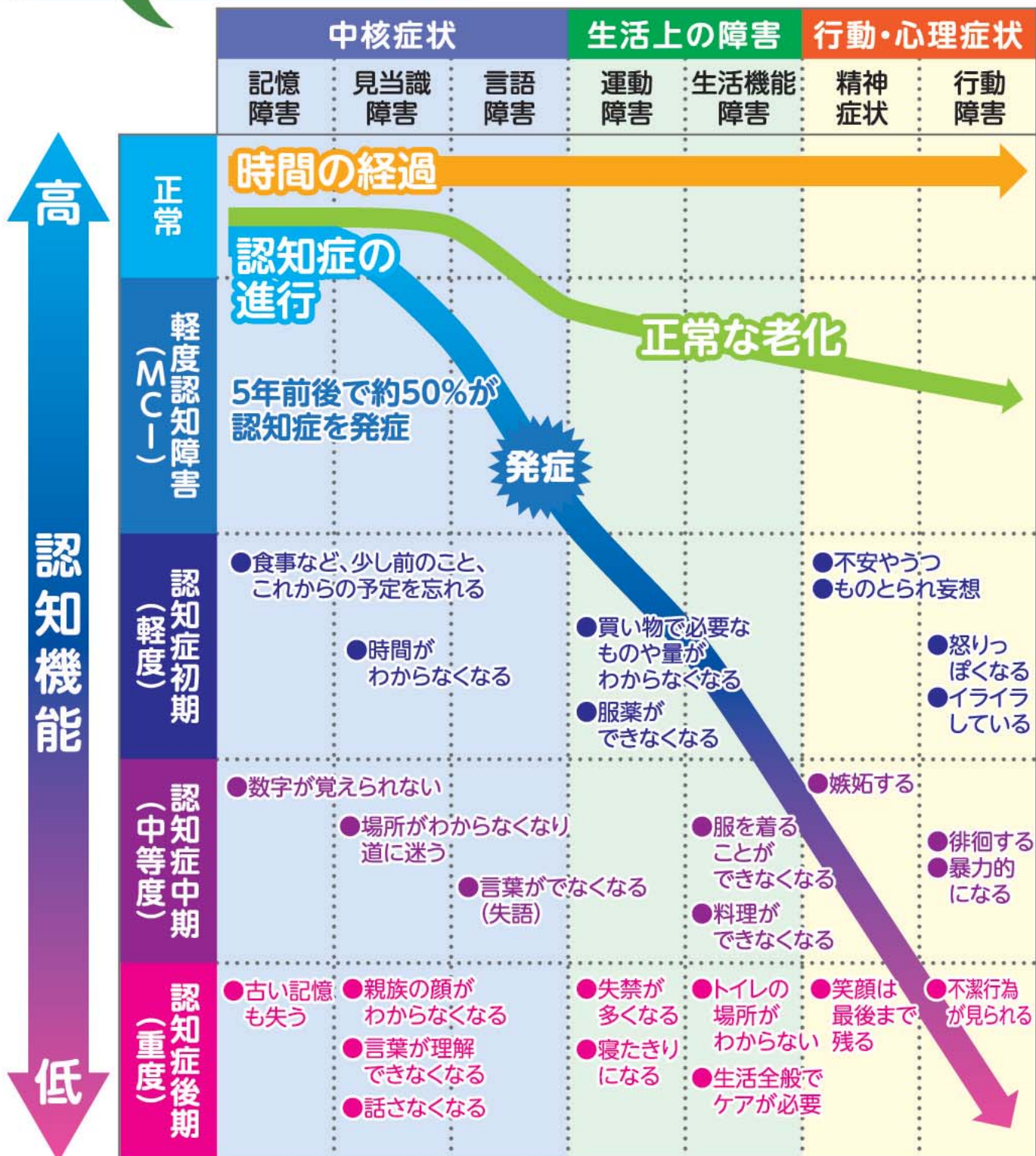


中核症状に、不安やあせり、心身の不調、周囲の適切でない対応が影響し、周辺症状が現れます。

認知症の進行と主な症状

認知症の進行の仕方や症状は、認知症の種類によって異なります。

アルツハイマー型認知症の進行例



認知症は、進行すると記憶障害だけでなく、生活機能障害など様々な障害が現れるようになり、日常生活が困難になってきます。一方で認知症の方には、病気の自覚がなく、周りのサポートがかえって不快な場合もあります。生活能力が低下する中、残っている能力を維持し、できることをどのように工夫して生活に活かすかが大切です。

覚えておきたい認知症の方への 接し方・対応のポイント

家族を悩ませる不可解な行動、困った行動にも本人なりの理由があります。家族や身近な人が怒ったり、間違いを訂正したりすることで、本人の症状が進行することもあります。認知症の進行に応じた症状であることを理解し、気持ちに寄り添って接することが大切です。

中核症状が起こす行動

◆日時の感覚の混乱「今日は何日？」

ポイント! 答えられなくても問題視しないこと

日にちは健常者でも分からないことがあります。不安を増強しないようにしましょう。大きな日めくりカレンダーを掛けておくことも良いかもしれません。



◆全体の記憶の障害「ごはんまだ？」

ポイント! 話題を変えて納得してもらう

食べた、という事実を理解してもらうのではなく、本人がいかになんか納得するかがポイントです。「もうすぐできるから待っていてね」「できるまでお茶を飲んでいてね」と話題を変えてみましょう。

◆季節が分からない「服装が変」

ポイント! 一緒に選ぶ、褒めて勧める

季節にあった衣類を一緒に選んでみてください。「お似合いですよ」と勧めると素直に着替えてくれることもあります。体調面で不都合がなければ目をつぶることも大切です。



◆家族を忘れる「あなた誰？」

ポイント! なりきって振る舞う

家族の名前を忘れたり、別の人と間違えるなど、目の前の人自分が自分とどういう関係なのか分からなくなります。「あなたの娘よ」と言い聞かせずに、別人を演じてしまいましょう。

周辺症状で見られる言動

◆もの盗られ妄想「財布を盗まれた」

ポイント! 同じ感情を共有して、味方になる

本人は盗まれたと思い込んでいます。これは財布がみあたらないことへの防衛反応として脳がつじつま合わせをするからです。反論せずに「それは困りましたね。いっしょに探しましょう」と共感しましょう。本人以外の方が財布を見つけた場合、「ここにありました」とは言わず、「このあたりを探してみませんか」と言い、本人に見つけてもらうことが大事です。



◆家に帰りたい願望「そろそろ失礼します」

ポイント! 気持ちを認め、落ち着かせる

「ここが家ですよ」と引き止めると不安や不信感が募ります。「そこまで送りますよ」と一緒に散歩をしたり、「お茶だけでも飲んでいってください」と気分を変えて落ち着かせます。

◆人柄が攻撃的に変化「バカにしているのか!」

ポイント! できる限り感情をいたわる

気持ちを表現できる言葉が出てこない、相手の言葉が理解できないことなどから、もどかしい気持ちを抱えています。日頃から本人を尊重する言葉をかけるとともに、投げられて危険なもの、困るものは目の届くところに置かないようにしましょう。

◆排泄トラブル「トイレまで間に合わなかった」

ポイント! 排泄のリズムを作る

トイレの場所がわからなくなったり、便意や尿意が感じなくなっていたり、ズボン等の脱ぎ方がわからなくなっているなどの原因が考えられます。本人は失敗によってすでに傷ついています。責めたりせず、定期的にトイレに誘導したり、着脱しやすい服を使うなどしてみましょう。

◆幻覚におびえる「そこに誰か立っている」

ポイント! 話を合わせて恐怖感を取り除く

虫がいる、泥棒が入ってきたなどと幻覚におびえたり混乱する場合は、否定せずに「もう出て行きましたよ」と話を合わせ、安心させてあげます。

音が聞こえたり（幻聴）、景色が見える場合もありますが、本人が楽しそうならそっと見守ってもいいでしょう。

2 認知症の受診と治療・ケア



あれ？おかしいなと思ったらまず受診。対処が早いほど生活の質をよい状態で保てたり、認知機能の回復・維持も期待できます。

早期受診はメリットが大きい

認知症と間違われやすいうつ病など他の病気の場合もあり、早期受診をすることは大切です。また、適切なケアや治療の開始により認知症の進行を遅らせたり、症状を軽減させられます。

さまざまな制度・サービスの情報収集やその利用計画も本人の意思を反映させるなど余裕を持って立てられます。



受診のコツを知っておこう

1 まずかかりつけ医に相談

かかりつけ医には、本人や家族を日頃から知っている強みがあります。必要に応じて専門医療機関を紹介してくれます。

本人と家族に心強い、かかりつけ医

- 早期段階での発見や気づき
- 専門医療機関の受診の勧め、紹介
- 日常的な身体疾患の治療や健康管理
- 本人や家族の不安の理解、アドバイス
- 地域の認知症介護サービス機関との連携 など



※かかりつけ医がない場合は、地域包括支援センターなどに相談しましょう。

かかりつけ医をサポートする、認知症サポート医

認知症サポート医とは、認知症の人たちを見ているかかりつけ医の相談・アドバイザー役です。認知症の専門知識を持ち、住み慣れた地域で認知症の人たちをケアしていくための推進役として期待されています。

2 気になることをまとめておく

診断に欠かせないのが、本人や家族からの情報です。本人の話はもちろん、家族からの視点、それぞれの話の食い違いなども重要な手がかりになります。医師に伝えたい内容をまとめておくとスムーズです。

事前に整理しておくポイント

- 性格や習慣などにどんな変化がいつごろから現れたか
- 具体的に困っている症状は何か
- 日や時間帯によって変化があるか
- 既往歴（高血圧や糖尿病などがあるか）
- 飲んでいる薬とその服用期間 など

3 受診へのためらいを上手にとる

本人が納得して受診することが望ましいですが、ためらいがある場合や、自覚がない場合は表現を工夫してみましょう。

本人に自覚があるなら

何かの病気かもしれないから
検査してみましょう

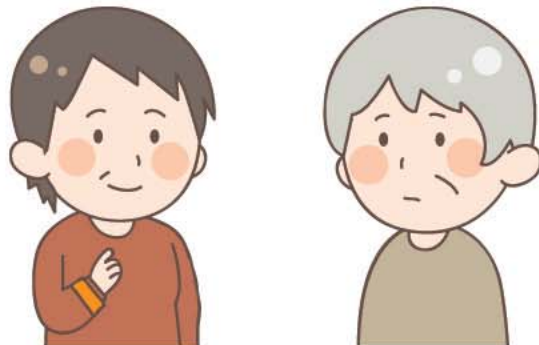
早く発見出来たら
治るかもしれないし、
進行も遅らせられるよ



本人に自覚がないなら

私の病院受診に
付き添ってください

一緒に健康診断に
行きましょう



3 認知症の人と家族を支える



認知症は適切なケアを長期的に行う必要があります。地域で安心して暮らしていくためにも進行状況に応じ地域にある資源や介護サービスを上手に利用しましょう。

どこに相談したらいいの？

早島町地域包括支援センター TEL：482-2432

もの忘れや認知症のことを気軽に相談できる専門職がいます。日常生活の中で、困っていることや心配なことなどさまざまな相談に対応しています。また、介護保険制度の相談や介護認定の申請・相談も受けています。



かかりつけ医

認知症になる以前からの本人の健康状態や持病を把握してくれているので相談がスムーズに行えます。また、介護保険を利用したくなったときは、要介護認定を申請するときに必要な「主治医意見書」の作成を依頼できます。

もの忘れ外来や認知症疾患医療センター

認知症の専門医がいる医療機関です。

【もの忘れ外来】

・国立病院機構 南岡山医療センター 神経内科 TEL:482-1121

【近隣の認知症疾患医療センター】

・川崎医科大学附属病院 TEL:086-464-0661(直通)

・倉敷平成病院 TEL:086-427-3535(直通)

緊急対応が必要な方(異常行動・心理症状等)への支援体制を病院と結んでいます。

可能な限りの外来または入院治療等を行えるよう早島町と協定を結んでいます。

【認知症疾患医療センター】

・慈圭病院 TEL：086-262-1191

認知症初期集中支援チーム

複数の専門職で認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族を訪問し、アセスメント、家族支援などの初期の支援を包括的、集中的(概ね6ヶ月)に行い、自立生活のサポートを行います。相談窓口は早島町地域包括支援センターです。

おかやま認知症コールセンター TEL:086-801-4165

自分が認知症かどうか不安な方や、認知症の方を支える中での接し方や介護の悩み、不安を抱える方など、様々な相談を受けます。

認知症の人と家族の会(岡山支部) TEL:086-232-6627

認知症の人を、介護をしている家族、介護に携わっている専門職、ボランティアなどが会員となって、電話相談、介護セミナー、家族の集いなどを行っている全国的な団体です。同じ悩みをもつ仲間同士で情報交換を行うことができます。

ケアマネジャー

ご本人に必要な介護(予防)サービスを計画し、在宅生活を支援します。

地域の人への身近な相談役!

民生委員

ご本人やその家族から相談を受け、必要に応じて専門機関などの紹介やつなぎ役をしています。担当地区ごとに民生委員がいます。

福祉活動員

地区の見守り・訪問活動などを行っている住民主体の活動員です。サロン活動や友愛訪問を行っています。

認知症地域支援推進員

認知症の人やその家族を支援する相談業務や地域の支援機関の連携を図るための支援等を行います。

認知症サポーター

認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を温かく見守る地域の応援者です。



社会参加する

◆地域交流

めざせ元気!!ころばん塾

週1回以上住民主体で取り組むおもりを使った介護予防体操です。

いきいきサロン

誰でも気軽に集まりふれあい交流や仲間づくりができる「居場所」です。

給食サービス

会食型の食事会で食事の準備の負担を軽減し、ふれあい(語らい)の場です。

はやしまオレンジカフェ(認知症カフェ)

認知症の人やそのご家族、地域の人たち等誰もが参加できるつどいの場所です。

専門職と一緒に茶話会をしながら相談をしたり、軽い体操や毎月違う催しで他者と交流することができます。



◆社会参加

早島町いきいきボランティアポイント制度

40才以上の方が地域や介護保険施設等でボランティア活動を行い、地域貢献することで介護予防の推進といきいきとした地域社会づくりをめざします。

シルバー人材センター

高齢者がこれまで培ってきた技術や経験を生かし、就労意欲のある高齢者への就業機会を提供します。

認知症について学ぶ機会

- ・認知症サポーター養成講座
- ・介護予防教室、認知症予防教室
- ・介護予防講演会、認知症講演会
- ・出前講座 など



医療系のサービス

かかりつけ医やP.12のもの忘れ外来や認知症疾患医療センターに相談して、必要な医療を受けることができます。

◆通院が困難で、治療や服薬、看護が必要な場合自宅に訪問します

- ・訪問診療(医師)
医療の提供
- ・訪問看護(看護師)
かかりつけ医の指示により看護を提供。
介護保険だけでなく医療保険で使える
訪問看護もあります。
- ・訪問歯科診療(歯科医師)
- ・訪問薬剤診療(薬剤師)



◆病院内の相談者

- ・医療ソーシャルワーカー
総合病院の「地域医療連携室」等にいる職員です。
患者さんの相談にのり、病院と在宅の
懸け橋の役割を担っています。

お問い合わせ先
かかりつけの医療機関へ



緊急時の「医療支援体制」も整えましょう

認知症の人の場合は周辺症状や合併症などで病状が急変するおそれがあります。「もしものとき」に備えて、かかりつけ医などと事前に相談し、訪問看護ステーションや認知症疾患医療センターなどと連携した緊急時の医療体制を整えておきましょう。きちんと方針が決まっていれば、あわてることなく対処することができます。

介護保険のサービス

サービスを利用して本人の日常生活の維持や家族の介護負担の軽減を図ることができます。

◆自宅で受ける

- ・訪問介護
- ・訪問看護
- ・訪問リハビリテーション
- ・訪問入浴介護
- ・福祉用具貸与
- ・住宅改修費支給
- ・配食 ・生活支援サービス など



◆施設に通う・短期間入所する

- ・通所介護（デイサービス）
- ・認知症対応型通所介護（デイサービス）
- ・通所リハビリテーション（デイケア）
- ・短期入所生活介護（ショートステイ）など

◆施設に入所する

- ・特別養護老人ホーム
- ・介護老人保健施設
- ・認知症対応型共同生活介護（グループホーム）など

介護保険サービスを利用するには、事前に要介護（要支援）認定の申請が必要です。上記のサービスを利用希望の方は、地域包括支援センターまでご相談下さい。

介護保険の申請ができる方

- ①65歳以上の人
- ②40～64歳の方のうち、特定疾患（老化が原因とされる16疾病）がある人（若年性認知症の方はこちらに含まれます）

※介護や支援が必要であると認定された人

お問い合わせ先 ◆早島町役場 健康福祉課 TEL:482-2483
◆早島町地域包括支援センター TEL:482-2432

行方不明が心配な時

- ポイント!**
- ・日頃から本人の状況を地域の協力者（自治会や友人、民生委員等）に伝え、さりげない見守りをお願いしておくことが有効です。
 - ・持ち物などにも名前を書いておきましょう。

早島町認知症高齢者等見守りSOSネットワーク

認知症高齢者(登録者)が行方不明になった時に、早島町内の協力機関に登録者の情報を発信をします。

事前申請が
必要



位置情報探索サービスの利用助成事業

認知症状のある高齢者の行方不明時の事故防止や介護家族への支援として、GPSを活用した位置情報探索サービスを利用する際の費用の一部を町が負担します。

金銭管理が心配な時

成年後見制度

認知症の人の日常生活の支援や財産管理、悪質商法によって被害を受けないように後見人などが支援を行います。

日常生活自立支援事業

判断能力に不安のある方に対し、日常生活の金銭管理・書類管理等のお手伝いをします。

家族の交流の場・相談できる場

◆息抜き・交流の場

介護者のつどい

認知症の人等介護されている方を対象に、介護のコツや情報紹介、講話や茶話会等を通して仲間づくりをし、日頃の悩み解消やリフレッシュができる場所です。

はやしまオレンジカフェ(認知症カフェ)

P.14~P.17のご利用されるサービスの窓口や内容についてはご相談ください。

◎お問い合わせ先 早島町地域包括支援センター TEL: 482-2432

4 認知症の進行に合わせて利用できるサービス

認知症の人も家族も、いつまでも安心して暮らせる地域づくりを目指して

認知症の経過と地域の関わり

認知症になっても安心して暮らせる

「住み慣れた地域で、自分らしい暮らしができるまち」を目指しています。

認知度の進行	自立		認知症（軽度）		認知症（中等度）	認知症（重度）	
	元気	認知症の疑い（MCI）	認知症を有するが日常生活は自立	誰かの見守りがあれば日常生活は自立	日常生活に手助け・介護が必要	常に専門医療や介護が必要	
本人の様子	<ul style="list-style-type: none"> ●地域とのつながり（社会参加を大事にする） ●健康づくりや介護予防に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ●もの忘れがあるが、金銭管理や買い物、書類作成等を含め、日常生活は自立している。 	<ul style="list-style-type: none"> ●買い物や金銭管理見られるが日常生活している。 ●新しいことがなかなれない。 ●料理の準備や手順など、状況判断が難しくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●等にミスが活はほぼ自なか覚えらを考える必要な行為が 	<ul style="list-style-type: none"> ●服薬管理ができない。 ●電話の対応や訪問者の対応などが一人では難しい。 ●買い物など、今までできていたことにミスが目立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●着替えや食事、トイレ等がうまくできない。 ●「ものを盗られた」などの発言をする。 ●家までの帰り道がわからなくなる。 ●時間・場所・季節がわからなくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●食事、トイレ、風呂、移動などの日常生活に関することが誰かの手助けがないと難しい。 ●言葉によるコミュニケーションが難しくなる。 ●声かけや介護を拒む。 ●車椅子やベッド上での生活が長くなる。
相談 (P.12)	地域包括支援センター(P.12) 認知症初期集中支援チーム(P.13) 社会福祉協議会 認知症の人と家族の会(P.13) おかやま認知症コールセンター(P.13) おかやま若年性認知症支援センター もの忘れ相談会 認知症カフェ(P.14、17) こころの健康相談						
予防・社会参加 (P.14～)	健康診断 健康相談 栄養相談 健康チャレンジ 健康教室 公民館講座						
	介護予防教室(P.14) 認知症予防教室(P.14) いきいき100歳体操「めざせ元気!!ころぼん塾」(P.14) 元気アップ塾 認知症カフェ(P.14)						
	地域のボランティア 自主グループ いきいきサロン(P.14) 独り暮らしの会 老人クラブ 給食サービス(P.14)						
安否確認・見守り (P.13、17)	地域包括支援センター(P.12) 民生委員・児童委員(P.13) 福祉活動員(P.13) 愛育委員 認知症サポーター(P.13) 認知症地域支援推進員(P.13) ケアマネジャー(P.13)						
	緊急通報装置 配食サービス(P.16)						
	位置情報探索サービス助成(P.17) 緊急連絡カード 早島町認知症高齢者等見守りSOSネットワーク(P.17)						
生活支援 (P.15～)	配食サービス(P.16) 給食サービス(P.14) 高齢者等生活用具給付 老人日常生活用具給付 介護保険サービス(住宅改修)(P.16) 寝具洗濯サービス						
	シルバー人材センター(P.14) 有料生活支援サービス等 ボランティア団体						
	コミュニティバス 乗り合いタクシー タクシー券 福祉タクシー 福祉有償運送 介護タクシー						
医療・介護 (P.14、15)	かかりつけ医・歯科・薬局(P.12) 認知症サポート医(P.10) 認知症疾患医療センター(P.12) 往診 訪問診療(P.15) 訪問看護(P.15) 精神科病棟入院(P.12)						
	介護保険サービス(通所介護・通所リハビリ・訪問介護・ショートステイ等)(P.16)						
権利擁護(P.17)	消費相談 消費者生活センター 成年後見制度(P.17)						
	日常生活自立支援事業(P.17)						
家族支援 (P.12～)	地域包括支援センター(P.12) ケアマネジャー(P.13) 認知症の人と家族の会(P.13) 若年性認知症の人と家族のつどい(ひまわりの会) 介護者のつどい(P.17) 認知症カフェ(P.17)						
	介護手当						
住まい(P.15)	自宅 サービス付き高齢者向け住宅 有料老人ホーム 短期入所(P.15)						
	グループホーム(P.16) 介護老人福祉施設(P.16)						
家族の心得・対応のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ●本人と一緒に認知症予防に関する取り組みを実践。 	<ul style="list-style-type: none"> ●年齢のせいにはせず、気になり始めたら、早めに専門医や各種窓口で相談。 	<ul style="list-style-type: none"> ●同じことを聞かれても、怒らず対応。 ●本人ができることはサポートし、できないことは一緒に行う。 ●認知症についての勉強や介護保険サービスの利用を開始する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●様々な症状が現れてきて疲れる時期。人の助けを借りましょう。 ●通所系サービスのみでは困難。訪問系や泊まり系サービスなどの検討を。 	<ul style="list-style-type: none"> ●本人が安心できる環境づくりを心掛ける。 ●最期の迎え方について家族間で話し合いをしておく。 		

認知症の気付きチェック

4つ以上あてはまる人は要注意!早めに受診・相談しましょう。

同じ話を何度も繰り返す



知っている人の名前が思い出せない



物のしまい場所を忘れる



漢字を忘れる



今しようとしていたことを忘れる



電化製品の使い方が分からない



怒りっぽくなった



身だしなみに無関心である



外出がおっくうになっている



物が見あたらないことを他人のせいにする



早島町地域包括支援センター

「はやしま認知症サポートブック」

発行日 平成31年3月

発行元 早島町地域包括支援センター

電話(086)482-2432

〒701-0303

早島町前潟360-1